

CS-74

土木技術者の語る歴史と人材の活用について

—「土木の生きた歴史アンケート」の概要—

日本福祉大学情報社会科学部 正会員 佐々木 葉

1. はじめに

本稿では、モノとしての土木建造物の歴史と対をなす、土木に関わった人々、特に土木技術者の重要性を考え、その記録と活用のための試みとして行った「土木の生きた歴史アンケート」の結果を報告する。

2. 土木史における「人」の重要性

有形の建造物として存在する土木ではあるが、言うまでもなくそれは人為であり、そこには必ず人が存在する。したがって有形の存在としての土木の歴史を考えるためには、それに関わった土木技術者をはじめとする人物に触れざるを得ない。しかし土木事業においてはその計画や設計、工事に関与した人物の名前、記録が残されにくい風土がある。これは建築とよく対照される点である。時間的空間的スケール、また事業の私性と公共性の違いがあるため、建築家のような人物の存在をいつの場合でも土木に求める必要はないと考えるが、匿名であることと記録が存在しないこととは別であり、個人名が周知されずとも土木の仕事に関わった人物の記録は必要である。

主要な事業には事業誌が編纂され、そこには各種の人物が登場する場合もあるが、必ずしも事業の実質の責任者、担当者とは限らない。また事業誌はいわば表の記録であり、事業者側の価値観に基づいて編集される。したがって、マイナスのイメージを与える記録やエピソードなどは欠落しやすい。土木史にとっては、事業の思想や専門的な評価の側面のみならず、大衆的、風俗的側面での評判も重要である。その意味も含めて様々な立場からの関係者の語る土木史にも注目する必要がある。さらには、土木の計画や設計を題材としたメディアが建築に比較して少なく、そのため途中経過や設計者の考え、批評、また図面や写真が記録として残される機会が少ない。こうした資料の保存および記憶も現在は関係者個人に委ねられている傾向が強い。

3. 歴史的土木建造物の保全・活用へのアドバイザーの必要性

ここ数年の間に歴史的土木建造物の保全・活用に対する社会の関心は急速に高まっている。また歴史的土木建造物のリストも整ってきた。しかしその多くは、モノの存在として把握されているに過ぎず、設計者、設計図面、工事の状況などの無形の情報は十分収集されているとはいえない。歴史的建造物の評価を行うためにもこれらの情報は必要であり、それは関係者の発掘に期待され、生存する土木技術者の聞き取り調査が急がれる。こうした記録採取とともに、その歴史的土木建造物の保全・活用、場合によっては取り壊して新たなものを構築する場合にも、オリジナルな建造物に関与した技術者の助言は極めて重要である。文化財として原型に復元・修復する場合に限らず、部分保存や転用においても当初の設計意図、工事手法などを踏まえた扱いが必要である。当該建造物の担当者でなくとも同様の事例に関与した人物、当時の状況あるいはその地方の特性を良く知る経験豊かな土木技術者のアドバイスを得ながら、創造的な保全・活用の方法を検討することが必要である。そのため、現在の職業や立場に拘束されずにこうした役割を担える土木技術者のネットワークが求められる。

キーワード：土木史 データベース 保全・活用

連絡先：〒475-0012 半田市東生見町 26-2: Tel:0569-20-0111 Fax:0569-20-0127 Email:sasaki@handy.n-fukushi.ac.jp

4. 「土木の生きた歴史アンケート」

以上のような観点からも、貴重な情報と経験を有する土木技術者の存在を中立的な立場から把握し、組織化することは重要であり、特に高齢な技術者についてはその把握が急がれる。そのために、市民グループである「土木の文化財を考える会」*1によって、70歳以上の土木学会会員を対象とした「土木の生きた歴史アンケート」が1997年10月に行われた。その概要は表1の通りである。

表1 アンケートの概要

アンケートの概要	
対象者	70歳以上の土木学会会員 (1997年当時)
実施数	約1200
実施方法	郵便による送付・返送
実施時期	1997年10月
回収数(回収率)	276(約23%)
設問の概要	
①回答者属性:	氏名、生年月日、出身地、連絡先、出身校、恩師。
②仕事の分野:	分野・所属・職歴
③関与した仕事:	対象概要、Etcソフト、関連人物名
④所有する資料:	工事記録・設計書、図面・写真他
⑤現代へのメッセージ	

5. アンケート結果とそのデータベース化

アンケートでは、充実した記述および関連資料が得られた。設問②では仕事の分野を選択方式で尋ねているが、その結果276名の仕事の分野は図1に示すように、特に偏りがなく多岐に渡っていた。また設問③の関わった仕事、構造物の概要とEtcソフト[®]に対しては、具体的な構造物名、年代、関係者を挙げてその経緯を述べているもの、あるいは専門的な技術開発や計画への従事といった具合に、人物と構造物やプロジェクトを結び付ける重要な手がかりとなる情報が寄せられた。そこで、それぞれの記述に対してキーワードを設定し、検索可能なデータベースを作成している。キーワードは構造物名とその所在地、あるいは地域名と分野(例:大阪地区の地盤改良)といったスタイルとして、場所や対象物に関わるキーワードでの検索が可能にしている。なお、設問②の仕事の分野から、例えば「東海地方の鉄道の計画に関与した人」を検索したり、設問④の所有資料についても検索が可能なようなデータベース化を検討している。

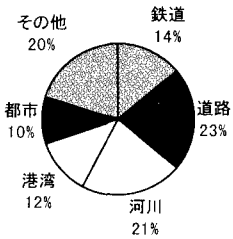
また、設問⑤の「現代の日本の土木界あるいは現役の土木技術者についてのメッセージ」には、含蓄の多い言葉が多々含まれているため、回答者の了承を得て今後冊子として公表したいと考えている。

6. 今後の展開

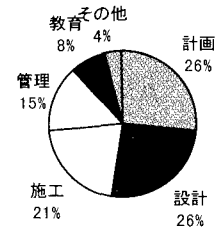
今後はアンケート対象者を拡大するとともに、その結果を統合して「土木の仕事と技術者のデータベース」にしていきたい。またその中から、土木構造物の保全活用等へのアドバイザーとして協力が得られる人材を抽出し、そのネットワークを構築したいと考えている。今後とも皆様のご意見、協力をお願いしたい。

*1: 1997年5月に土木構造物の文化的な価値の認識を広めることなどを目的として「土木の文化財を考える会」として発足。会長高橋裕、事務局前島郁子、杉浦幸子および筆者、その他多くの土木史専門家のアドバイスを受けながら、市民グループとして活動し、1998年10月に「土木の文化財を考える会」と改名。1999年4月現在全国各地から約160名の会員が登録されている。

専門領域



担当領域



所属機関

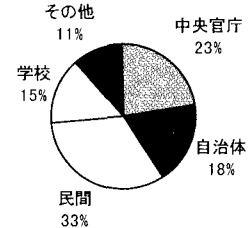


図1 回答者の仕事の分野別割合